

1 学習に取り組んでいる主な分野

<input type="checkbox"/> 生物多様性	<input type="checkbox"/> 海洋	<input type="checkbox"/> 防災・減災	<input type="checkbox"/> 気候変動
<input type="checkbox"/> エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 環境	<input type="checkbox"/> 文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 世界遺産・文化財
<input type="checkbox"/> 国際理解	<input type="checkbox"/> 平和	<input type="checkbox"/> 人権	<input type="checkbox"/> ジェンダー平等
<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 生産と消費	<input type="checkbox"/> その他 ()	

2 ユネスコスクールとしての活動の概要

本校は「体験活動を通して地域のよさを感じ取り、広く発信する」ことを活動目標にして、ESDに取り組んできた。特に「持続可能な開発および持続可能なライフスタイル」の実現に向けて、発達段階に即した子ども達に必要な資質能力を地域の「人・もの・こと」を活用しながら身に付けさせることを大切にしている。具体的には、体験活動の重視、表現活動の工夫、振り返り活動の重視を柱に①郷土に関わる学習、②環境に関わる学習、③福祉に関わる学習を行った。



3 特徴的な活動事例の紹介

○ 4年生「一枚のカルタから」—地域の史跡をカルタに表す

三池が日本のカルタ発祥の地と言われることから、4年生では、三池に残る「人・もの・こと」について調べたことをカルタにまとめて、保護者や地域の方に発信する学習に取り組んだ。まず、大牟田の「郷土カルタ」で遊びながら校区内には有名な自然や史跡があることを発見した。

次に「三池の歴史を学ぶ会」の方をGTに招き、「郷土カルタ」にも取り上げられている三池の題材の場所を見学したり、三池の歴史や史跡についてのお話を聞いたりして、長きにわたり大切に受け継がれている伝統文化や地域の方の思いに触れた。史跡巡りなどのフィールドワークを通して、自分たちが住む三池はたくさんのお寺や神社をはじめ、三池藩



かりの建物などが残っていることを知った。また、その由来や関連する事象などについて、本やインターネットで詳しく調べ、学習のまとめをカルタにした。カルタは、自分たちがいつでも学びを振り返ったり、他の学年や地域の方にも気軽に知ってもらったりできるように、だれにでもわかりやすい絵札や読み札を意識して作っていった。絵札や読み札を作っていく中で三池の自然や今も残る史跡の素晴らしさを改めて感じた。

さらに、作ったカルタでみんなで遊んだり、家族や地域の方に紹介したりするなどして三池のよさを発信している。



○ 3年生「三池校区の生き物や自然をしらべよう。」

5年生「三池地区の環境について調べよう」—堂面川の水質調査学習—

ふるさと三池の豊かな自然を守り残していくために、3年生では、校区を流れている堂面川や三池公園、三池山等の生き物や自然を実際に現地に行き調べ、生き物や自然環境の現状を知った。生き物や自然を未来に残すためにできることを考え、新聞やポスターにまとめ、校内に掲示した。また、5年生では、堂面川を対象にした環境について調べた。水質により住む生物が違うことから実際に採取してきた生き物の種類や数を調べたり、パックテストで水の汚れを測定したりした。これらを下流域と比較することで、三池の自然のよさを知り、次の時代に引き継いでいかなければならぬことに気づいた。そこで、自分たちにできることを考えたり調べたりして新聞等にまとめていった。



3 今後の活動計画

令和8年度も本校では地域を対象とした学習は継続していきたい。今後、さらに本校の地域体験学習をより充実していくために

- 1 ゲストティーチャーである「三池の歴史を学ぶ会」との連携をさらに図り、児童の学びのニーズに即した学習素材の掘り起こしを行い、内容の充実を図っていく。
- 2 学習したことを新聞にまとめたり、三池の歴史にちなんだジャンボカルタを作成したりするなど、来年度以降も継続して取り組み、地区公民館や商業施設での展示などを通して発信していく。
- 3 学習指導計画の見直し・改善を継続的に行う。総合的・横断的な学習となるようなカリキュラム編成を行う。